

第 6 3 期

事 業 報 告 書

令和 3 年 (2 0 2 1 年) 度

自 2 0 2 1 年 4 月 1 日

至 2 0 2 2 年 3 月 3 1 日

公益財団法人中外創薬科学財団

(旧公益財団法人東京生化学研究会)

I. 第 63 期令和 3 年(2021 年)度事業概要

東京生化学研究会は昭和 35 年(1960 年)に文部省の承認により財団法人として設立され、平成 22 年(2010 年)に公益財団法人に移行し事業を展開してきた。令和 4 年(2022 年)からは公益財団中外創薬科学財団と名称を変更し、2022 年 12 月に内閣府より事業内容変更の承認を受け、あらたに活動を継続して行く。東京生化学研究会として最後の活動となった令和 3 年(2021 年)度は、定款第 3 条(2022 年 3 月末日現在)に掲げる薬物治療並びに新医薬品の創製に関する基礎的・応用的研究及び臨床への橋渡し研究を助成・奨励し、かつ研究者の育成及び研究活動の国際交流の推進に努め、この分野における研究の振興を図るとともに患者の目線に立った医療環境の改善に向けた活動を支援する活動を行い広く人類の健康と福祉に寄与することを目的に、定款第 5 条に掲げる事業を行った。

1. 令和 3 年(2021 年)度事業内容

2021 年度は以下の事業を実施した。

(1) 公益目的事業1

1) 研究助成 (定款第 5 条第 1 項第 1 号)

薬物治療並びに新医薬品の創製に関する基礎的・応用的研究に関し独創的内容を有する研究を行い、注目すべき業績をあげつつある研究者並びに意欲的に取り組もうとする若い研究者に対し、それぞれ研究助成金並びに研究奨励金を贈呈した。

2021 年度 研究助成実績 総額 115,500 千円

① 特別研究助成金 (特定費用準備資金)

[募集方法] 特定費用準備資金の積立てより、特別研究助成を行う。

テーマ「ウイルス感染症・がん」に関する研究を対象に公募を行う。

[助成金額] 総額 15,000 千円 (1 件 6,000 千円を 2 回に分けて交付：年額 3,000 千円 5 件)

[選考方法] 選考委員会 D で候補者の選考を行い、理事会で決定

② 研究助成金

[募集方法] 公募研究テーマ (3 テーマ) により公募

[助成金額] 総額 54,000 千円 (1 件 4,000 千円を 2 回分割交付：年額 2,000 千円)

2021 年度 (初年度) 12 件

2020 年度 (第 2 年度) 15 件 計 27 件

[選考方法] 選考委員会 A で候補者の選考を行い、理事会で決定

③ 研究奨励金 B-I

[募集方法] 公募研究テーマ (3 テーマ) により公募

40 歳未満の若い研究者を対象

[助成金額] 総額 31,500 千円 (1 件 1,500 千円 21 件)

[選考方法] 選考委員会 A で候補者の選考を行い、理事会で決定

④ 研究奨励金 B-II

[募集方法] 独立して新しい研究室を立ち上げた若い研究者（原則として45歳未満）を対象に公募

財団の目的に沿った研究テーマであれば、特にテーマに制限はない

[助成金額] 総額15,000千円（1件1,500千円 10件）

[選考方法] 選考委員会Aで候補者の選考を行い、理事会で決定

2) アジア地域研究者招聘による国際共同研究助成（定款第5条第1項第2号）

わが国とアジア地域の研究者による薬物治療並びに新医薬品の創製に関する共同研究を助成する目的で、アジア地域より若い研究者をわが国の大学・研究機関に招聘し、1～2年間滞在費その他を支給するとともに、受入研究者に研究助成金を贈呈した。

[募集方法] 公募（申請は国内の受入研究者による）

原則として40歳未満のポスドクを対象

[助成金額] 総額51,930千円 11件（継続5件、新規6件）

（助成金の内訳）

- ① 招聘研究者：滞在費月額320千円（住宅手当含む）、往復航空券（実費）、渡日一時金200千円、家族手当50千円、海外旅行保険料年額約200千円等
- ② 受入研究者：共同研究助成金 1,500千円（年額）

[選考方法] 選考委員会Bにおいて候補者の選考を行い、理事会で決定

3) 奨学補助金助成（定款第5条第1項第3号）

わが国の大学等研究機関において、薬物治療並びに新医薬品の創製に関する研究に精力的に従事する大学院生もしくは大学院研究生を対象とし、奨学補助金を給付した。

給付は、2年間を限度とし、返還の義務はない。

[募集方法] 公募

[助成金額] 総額21,000千円（25件、月額70千円、年額840千円）

[選考方法] 選考委員会Cで行い、理事会で決定

4) 海外派遣・招聘補助金（定款第5条第1項第4号）

海外で開催される、薬物治療並びに新医薬品の創製に関する国際会議への研究者の派遣並びにわが国で開催される同様の国際会議への海外研究者の招聘に関し、旅費及び滞在費などの経費を補助した。

[募集方法]

- ・申請時期 年度の前半期（4～9月）と後半期（10～3月）の2回
- ・申請者 派遣の場合：当事者本人
招聘の場合：会議の会長（学会長もしくは実行委員長）
- ・招待講演並びに特別講演を行う研究者対象（一般の口頭発表、ポスター発表は対象外）

[助成金額] 総額1,500千円

海外招聘補助金 3件* 1,500千円 (*1件辞退あり)

[選考方法] 選考委員会Cで候補者の選考を行い、理事会で決定

5) 助成研究報告集の刊行 (定款第5条第1項第9号)

・2020年版助成研究報告集(非売品)を350部作成。医学・薬学系大学、学術研究機関等及び財団関係者に無料で11月配布。(作成費用:2,640千円)

6) 上記事業関連(定款第5条第3項)

・2021年3月に予定していた令和3年(2021年)度助成研究報告会は、COVID-19の国内感染が拡大している状況であったため、中止とした。

(2) 公益目的事業2

1) 国際シンポジウム、学術講演会、研修会の開催・支援(定款第5条第5号)

① 国際フォーラム(International Academy for Advanced Oncology; IAAO)

実績 15,982 千円

日本のがん研究、がん治療の向上を目的に、がん研究の世界トップレベルの研究者・オピニオンリーダーを招聘し、アドバイザリーボードメンバーの推薦に基づいた日本のトップレベルのがん研究や治療を担う基礎・臨床の研究者、がん専門医約200名並びに公募にて選考され、理事会で承認された若手研究者20名を招待し、情報交流・討議を行う国際会議を開催する。

➤ IAAO2021の開催については、当初は集合形式で行う予定であったがCOVID-19の感染患者数の急増により完全Onlineにて行った。

➤ IAAO2018及び2019記録集の刊行

当初前期中に刊行予定のIAAO2018記録集は、編集作業の遅れにより今期の5月に刊行。IAAO2019記録集は予定通りに編集作業が進み7月に刊行した。

② フォーカスシンポジウム(Focus Symposium: SF) 未開催のため実績なし。

地方大学、大学病院、がん診療拠点病院、研究所などにおける、がんの基礎・臨床研究の質的・量的向上、さらには地方での標準治療普及の促進を目的に、世界のがん研究・治療の最新トピックスにスポットを当てた講演会の主催又は共催にて開催する。

➤ 世界的にCOVID-19の感染拡大があり、6月にシカゴにて予定していたCancer Expert meetingが中止となった他、九州大学他3施設より依頼があったフォーカスシンポジウムは施設での開催が不可となり中止となった。

2) 海外研究者招聘補助(定款第5条第4号)

日本がアジアにおけるがん研究及びがん治療の拠点地域となることを目的に、日本癌学会及び日本臨床腫瘍学会各学術集会において、アジア諸国で将来を期待される若手研究者が学術集会に参加し研究成果を発表することを促進するために行っている事業に対し、渡航

費、滞在費助成の一部をトラベルグラント、トラベルアワードの補助金として助成。

- ① 日本癌学会学術総会（2021年9月30日 - 10月2日）トラベルグラント
実績 2,250千円
- ② 日本臨床腫瘍学会学術集会（2022年2月17-19）トラベルアワード
実績 1,500千円

3) **教育コース派遣**（定款第5条第1項6号） 実績なし。

日本の若手基礎研究者・臨床研究者の育成並びに海外研究者との人的・研究ネットワーク形成を目的に、米国の Society for Translational Oncology (STO) が主催する若手がん臨床研究者養成研修会 (STOFF) に派遣候補者を選考委員会 D にて選考し、理事会で決定して派遣する。

2020年4月22日に選考委員会 D 及び理事会にて3名が選考されたが、米国での COVID-19 の感染患者の減少がみられず2020年度、2021年度とも延期となった。米国の開催事務局より2022年度に開催する方向で調整中との連絡があり、2022年度に派遣予定者3名は2020年度に選考された3名をスライドして派遣する予定。

4) **JCA-CHAAO 賞の表彰**（定款第5条第1項7号）

実績 10,014千円（創設10周年記念式典と合同で受賞記念講演会を開催）

日本癌学会学術賞の一つとして日本癌学会と共同で創設した賞で、「日本初の新たな抗がん剤・治療法に関する研究・開発を行い、がん医療の発展に多大に貢献する成果物を創出した個人又はグループの功績を称え、今後のがん研究の一層の振興を図る」ことを目的に、日本癌学会が公募を行い表彰し、後日、受賞記念講演会を開催する。

今年度は、第11回 JCA-CHAAO 授賞式は例年通り日本癌学会総会にて行われたが、受賞記念講演会は JCA-CHAAO 賞創設10周年記念式典との合同で行われた

① 第11回 JCA-CHAAO 賞授賞式

受賞者：浜本隆二先生（国立がん研究センター研究所）、山田真善先生（国立がん研究センター中央病院）、斎藤豊先生（国立がん研究センター中央病院）

テーマ：大腸がんの効果的な内視鏡治療及び個別化医療の実現を志向した内視鏡 AI 診断支援医療機器の開発

日時：10月2日

会場：横浜パシフィコ（日本癌学会学術集会総会）

② 第11回 JCA-CHAAO 賞受賞記念講演会

日時：12月8日 3:30pm-6:00pm

会場：六本木アカデミーヒルズ 49

参加者：75名（歴代受賞者・関係者、日本癌学会理事・監事・事務局、当会理事・職員、関係者）。

5) **教材資料作成**（定款第5条第1項9号）・実績 4,000 千円

がん研究、がん治療の資料や教育資材として活用するための各種冊子・印刷物を作成・出版した。出版された各資料は、各がん関連学会又はセミナー等の機会に直接無償配布を行うほか、ホームページからも広く受付配布した。

① 抗腫瘍薬一覧表・ポケット版

厚生労働省の承認を受けた抗がん剤の商品名、一般名、適応症、副作用を専門医が監修のもと簡潔にまとめた「抗腫瘍薬一覧表 2021 年度版」を7月に発刊した。同時に携帯用に「抗腫瘍薬一覧表 2021 ポケット版」も発刊し、希望者に無償提供した。

(3) **公益目的事業 3**

1) **日本がん患者会会議（FFJCP2022）開催**（定款第5条第1項8号）・実績 8,991 千円

日本のがん患者会の代表者が活動経験の交流、活動課題の学びの場を提供し、患者の視点を日本のがん医療に反映させるといった目的で、最新の医療情報の収集及び意見交換を行う会議を開催した。

開催後には記録集を作成し、参加者、関係者に無償配布を行った。

① FFJCP2022 の開催

② FFJCP2021 及び FFJCP2022 記録集の刊行

2021 年 4 月に FFJCP2021 記録集を 800 部刊行し、参加者、所属団体等に無料配布。

2022 年 3 月に 2022 年 1 月に開催した FFJCP2022 記録集を刊行し、参加者、所属団体及び希望患者会に約 500 部を無料送付した。

2) **エリアセミナー開催**（新定款第5条第1項8号）実績なし。

地方での患者会の学習ならびに経験交流を支援する目的で、FFJCP のフィードバックや小規模な勉強会・会議を共催にて行う。

今年度は COVID-19 の感染拡大により開催ができなかった。

2. **事業報告付属明細書**

令和3年(2021年)度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する状様な事項」に該当するものがないので作成しない。